

H.C.R. 2022 報告

1 オープニングセレモニー 10月5日(水) 9:45~

東2ホール前ガレリアにて、多くの来場者・関係者にお集まりいただき、オープニングセレモニーを開催しました。

はじめに主催者である清家篤全国社会福祉協議会会長より、H.C.R.の開催に際し福祉機器開発・販売企業やご来場の皆様への感謝を述べたのち、ご来賓を代表し羽生田俊厚生労働副大臣より福祉機器とH.C.R.の発展への期待を寄せるメッセージを頂戴しました。

開場の際に催されたテープカットは、羽生田厚労働副大臣、清家全社協会長、古都賢一保健福祉広報協会理事長、デンマークや米国、韓国から来訪された来賓などによって執り行われ、H.C.R. 2022が華々しく幕を開けました。



清家篤全国社会福祉協議会会長

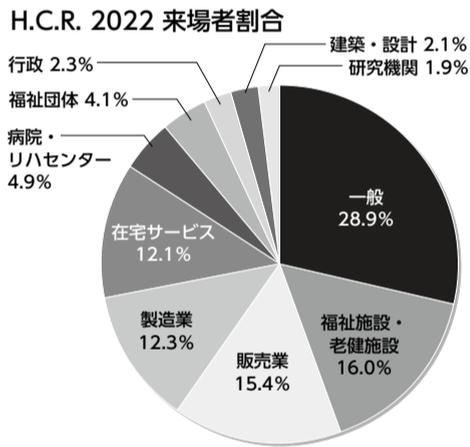
羽生田俊厚生労働副大臣

2 来場者数 88,512人

来場者数は、会期3日間で、延べ88,512人にのぼりました。

来場者の業種の割合としては、一般が28.9%と昨年同様一番多い結果となりましたが、その割合は昨年の36%から7.1%減となりました。次いで福祉施設・老健施設が16%であり、昨年の11%から割合が5%伸びています。

さらに続いて販売業15.4%、製造業12.3%、在宅サービス12.1%、の順となりました。



3 出展社数 342社・団体

出展社数は、リアル展・Web展あわせて国内外から342社・団体が出展しました。内訳としては、国内から326社・団体、海外からは7か国1地域より16社の出展となりました。

依然としてコロナ禍による国内外企業・団体への経済的影響がある中の開催ではありましたが、会場の都合により展示面積の制約が発生していた前年に比して約1.5倍の出展社数となりました。

また、東京ビッグサイト東展示ホールを会場としての開催は2018年以来4年ぶりであり、出展社からも来場者からも喜びの声が寄せられました。

国名	社数
アメリカ	6
オーストラリア	1
オランダ	2
スウェーデン	1
台湾	2
中国	1
デンマーク	1
ドイツ	2
日本	326

※国名50音順

感謝状贈呈式

出展社の中から、H.C.R. 2022で15回目の出展を迎えられた下記11社を対象に、会期初日の10月5日(水)の開会式終了後または各出展社の展示等ブース等にて本会理事長より感謝状と記念品の贈呈を行いました。

15回目の出展を迎えられた出展社

- ◆株式会社EMシステムズ
- ◆KAZEN WLD株式会社
- ◆Guldmann GmbH (ドイツ)
- ◆株式会社ケアマックスコーポレーション
- ◆積水ホームテクノ株式会社
- ◆株式会社テレウス
- ◆東京体育機器株式会社
- ◆公益社団法人日本理学療法士協会
- ◆株式会社ハイテックシステムズ
- ◆有限会社フジオート
- ◆株式会社ライフリング

※社名50音順

製品別出展社数

H.C.R. 2022出展社のうち、取り扱い製品カテゴリー別の出展社数は下記の通りとなりました。

製品別出展社数一覧

移動機器 (車いす等)		建築・住宅設備	
手動車いす	16	スロープ	4
車いす関連用品	30	手すり	13
電動車いす	13	エレベーター	1
自転車	1	段差解消機	6
介助車	5	階段昇降機	6
移動機器 (杖、歩行器等)		建築・住宅設備 (その他)	6
歩行器、歩行補助車	13	リハビリ・介護予防機器	
杖	12	歩行等訓練機器	7
移動機器 (リフト等)		リハビリ用教材・機器	14
ストレッチャー等移動器具	4	筋力トレーニング機器、 身体機能訓練機器	4
移乗補助機器	14	口腔ケア用品	3
床走行リフト	14	義肢、装具	
固定式・据置式リフト	11	義肢、装具	1
介助・歩行補助ロボット	2	日常生活支援用品	
福祉車両、関連機器		自助具	2
障害者用自動車運転装置	3	障害者スポーツ・ レクリエーション用品	1
車いす等用福祉車両	5	介護関連用品	7
ベッド用品		日常生活支援用品 (その他)	7
ベッド	6	フレイル介護予防関連機器	3
マットレス、床ずれ防止製品	12	介護等食品、調理器具	
サイドテーブル	1	食事用品、食器	2
介護用シーツ	4	キッチン	2
ベッド用品 (その他)	8	調理器	2
入浴用品		高齢者・障害者用食品	1
浴槽	13	福祉施設環境設備・用品	
入浴用チェア	7	施設建築、施設用床材・壁材	1
滑り止め用品	4	洗濯機、乾燥機、掃除機、脱臭機	2
浴槽台	3	いす、座位保持・立ち上がり補助用品	8
入浴用リフト	8	家具、テーブル、洗面台	8
入浴用品 (その他)	11	火災報知設備、自動消火設備	1
トイレ・おむつ用品		防災・避難用品	4
ポータブルトイレ	6	自家発電・蓄電装置	1
便器・便座	3	介護職員用衣類	2
防臭剤、消毒剤	3	福祉施設環境設備・用品 (その他)	6
トイレ関連用品	8	感染症等予防用品	
おむつ関連用品	4	空気清浄機、加湿器、消毒器	5
自動排泄処理装置	3	感染症等予防用品 (その他)	15
衣類・着脱衣補助用品		在宅・施設サービス経営情報システム	
衣類	3	福祉事業関係コンピュータシステム	14
靴	6	出版・福祉機器情報	
帽子、保護帽、かつら	1	福祉・介護・リハビリ・保健関係 書籍・教材、情報誌、新聞、放送	12
着脱衣補助具	1	通信、福祉機器関連webサイト	
コミュニケーション(聴覚・視覚)・見守り機器		製品別出展社数計	471
福祉電話・FAX、携帯会話補助器	1		
緊急通報・見守り装置	15		
障害者用OA機器、ソフトウェア、操作補助具	3		
コミュニケーション関連ロボット	3		
コミュニケーション・見守り機器(その他)	20		

※H.C.R. Web2022 掲載情報より抽出

4 国際シンポジウム 10月6日(木) 13:00~ 15:00

ヘルスケアイノベーションを創る ~医療と介護の融合と社会連帯による実現~

スピーカー

デンマーク
ナンナ・スコヴゴール 氏/
デンマーク全国自治体連合
社会・健康・高齢者政策担当部門長

日本
猪熊 律子 氏/読売新聞東京本社編集委員

チューター
塚田 典子 氏/日本大学商学部 教授



人生100年時代を見据え、わが国における介護・フレイル(虚弱)予防、生活支援はますます重要課題となっています。H.C.R. 2022では、社会保障の観点からそれらの課題を解消していく医療・介護の体制づくりについて、考察していく

場として「ヘルスケア・イノベーションを創る～医療・介護の融合と社会連帯による実現～」をテーマに国際シンポジウムを開催しました。

デンマーク講師は、「すべての人のための持続可能で一貫した尊厳ある医療制度と高齢者ケア：デンマークの事例」と題し、医療制度と高齢者ケアシステムを相互連携させる基盤となるデンマークのデジタルツールとデータ活用を作り上げている事例について説明しました。また、医療とケアの未来はデジタル・ソリューションによってもたらされると指摘しました。

日本講師からは、新聞記者の立場から日本の社会保障の観点に立ち、2040年に向けた医療・介護の課題を整理し、構造改革と日本の現状に則した意識改革の必要性等について示唆しました。

最後に、チューターより持続可能な高齢社会、豊かな長寿の実現のために「商助」（民間の力との連携）も取り入れつつ、時代に即した社会保障システムや関連プログラムにアプローチしていくことの必要性等にふれ、まとめました。

なお、本シンポジウムの内容をまとめた報告書を、本年1月末に刊行予定です。

5 H.C.R.セミナー

福祉サービスを利用されている方々やそのご家族、保健・福祉・介護分野の関係者、企業関係者などの来場者向けに、関連する福祉分野の最新情報等を提供する場として開催しました。

4会場、計35テーマもの多彩なセミナーを展開しました。

セミナー会場A（東6ホール）～テーマ：地域共生社会～

①医療的ケア児と家族支援の今とこれから

高橋 昭彦 氏／認定NPO法人うりずん 理事長

2021年に「医療的ケア児支援法」が施行されたことをふまえつつ、医療的ケア児やその家族と自身の関わりの中で生じたさまざまな事例や体験を通して、医療的ケア児の支援と同様にその両親、きょうだいなどのレスパイトケアを行うことの大切さを述べました。

また、今後の医療的ケア児に係る課題解決のための展望として、在宅ケアには医師・看護師など医療の専門家と、教育・保育・介護など福祉の専門家が一体となってチームで支援することの重要性を指摘しました。

5日(水)
11:00～12:00



②組織を変える福祉現場のリーダーシップとは～魅力的な福祉の職場づくり～

佐々木 炎 氏／NPO法人ホッとスペース中原 代表

わが国の人員不足、とりわけ介護・福祉現場の担い手不足である現状のもとに、人を「育てる」ことを軸に講義を展開しました。佐々木氏は、リーダーに必要な3つの柱として①理念・倫理・行動指針の徹底、②業務改善とケアの質をめざす、③人間として成長できる職場の関係を築くこと、であると指摘し、それぞれの具体例や自身の活動事例をふまえて解説しました。

5日(水)
12:30～13:30



③障害者の権利の一層の実現と社会参加の促進のために～新たな段階に向けた道筋を描く～

野澤 和弘 氏／

植草学園大学 副学長・発達教育学部発達支援教育学科 教授

社会の変化とともに「障害」の定義は変わってきていることを指摘しつつ、障害者差別に係る課題解決のためには、先入観や固定概念にとらわれずに他者の考えを知っていくことが差別解消に通じることを述べました。また、2021年6月より3年以内に障害者差別解消法による合理的配慮の提供の義務化が民間企業に適用されることをふまえ、多様性に配慮することでビジネスとしても広がりをもたらされる事例を紹介し、新しい時代にそった権利擁護の推進についてその重要性を解説しました。

5日(水)
14:00～15:00



④e-Sportsを通じた障害者支援と自己実現

堀川 宣和 氏／星城大学経済学部 講師(写真左)

吉沢 純生 氏／(一社)日本福祉協議機構(写真右)

堀川氏は、まずe-Sportsがもつ社会性について解説し、e-Sportsを通じてコミュニケーション力や想像力の向上、グローバルな関わりなど、子どもの成長に寄与することを解説しました。

吉沢氏は、一般に「ゲーム」に対し依存症などマイナスなイメージがあることをふまえつつ、うまくe-Sportsを利用していくことで不登校やひきこもりの子どもたちの世界が広がっていく可能性について述べました。

5日(水)
15:30～16:30



⑤農業を介した持続可能な地域共生社会へのアプローチ

中村 隆一郎 氏／(福)白鳩会 理事長

(福)白鳩会が実施する「花の木農場」や「大隅半島ノウフクコンソーシアム」の事例から、人口減少と高齢化の課題を抱えた地域において、農業と福祉施設の連携がもたらす好影響について紹介しました。また、今後は農業だけではなく、福祉と教育、福祉とスポーツなど、さまざまな連携形態により障害者があたりまえに地域に参画し活動し続けることができる社会への期待を述べました。

6日(木)
11:00～12:00



⑥2040年を展望した地域における介護・医療の包括的支援を探る

香取 照幸 氏／上智大学 教授・未来研究所臥龍 代表理事

コロナ禍によって見えたわが国の医療・介護の機能やあり方の課題は、65歳以上の人口がピークになると想定される「2040年問題」に通じる課題であることを指摘し、地域の包括的支援の体制づくりが急務であることを指摘しました。

その上で、地域包括支援システム構築のために必要な要件などについて解説しました。

6日(木)
15:30～16:30



⑦地域社会に貢献する企業のあり方

新宮 歩 氏／(株)とくし丸 代表取締役社長

(株)とくし丸が実施する「移動型スーパーマーケット」事業モデルを通して、いわゆる買い物難民の状態にある、孤立した高齢者との関わりを深め、その見守り機能を果たす事例などを紹介しました。

また、「高齢者と食」の課題に着目するとともに今後の事業環境の変化を見据え、高齢者のデジタル利用の強化や健康サポート支援を視野に入れた将来の事業展開の展望について述べました。

7日(金)
13:00～14:00



⑧アートと福祉の融合と可能性～異彩を、放て～

松田 崇弥 氏／(株)ヘラルボニー 代表取締役CEO

知的等の障害がある作家とアートライセンス契約を結び、アパレルや雑貨、建築など様々なかたちで作品を発信していく(株)ヘラルボニーの事業展開を紹介しました。

(株)ヘラルボニーでは、それぞれの作家が描く作品の個性を生かしつつ、ブランドの打ち出しにより更なる価値を見出し、福祉の枠にとらわれずビジネスへ昇華していくという事業やその理念について語っていただきました。

7日(金)
14:30～15:30



セミナー会場B（東6ホール）～テーマ：介護予防／ヘルスケア～

①健康寿命を延ばすための高齢者自身による取り組み

青木 勇 氏／東京都東大和市シニアクラブ連合会「新成会」副会長(写真左)

相原 勇二 氏／ベイシニア浦安(千葉県浦安市老人クラブ連合会)会長(写真右)

わが国における平均寿命の延伸に伴い、「健康寿命」の延伸による高齢者の生活の質の維持・向上が重要視されています。

青木氏は、新成会における健康体操による介護予防の取り組み事例を紹介しました。相原氏は、ベイシニア浦安でのロコモ予防の運動体操の実施やデジタルを活用したe-Sportsの取り組みなどを紹介し、地域の高齢者が連帯の中でいきいきと生活されている様子が報告されました。

5日(水)
11:00～12:00



②高齢者のための手軽な料理講座～楽しく気軽にシニアご飯～

料理研究家 枝元なほみ 氏／NPO法人ビッグイシュー基金 共同代表・(一社)チームむかご 代表

「簡単」「日持ちがする」「楽しい」をテーマに、発酵食品を使ったレシピを5日(水)と7日(金)の2回、実演紹介しました。

麴を活用した甘酒や鶏肉の塩麴焼き、発酵白菜を活用した浅漬けなど、発酵食品で免疫力をあげるレシピをご紹介します。

5日(水) 13:30～14:30
7日(金) 13:30～14:30



③ふくし未来塾プレゼンテーション～福祉現場の次世代リーダーが描く未来像～

山下 興一郎 氏／淑徳大学 准教授

全社協ふくし未来塾 卒業生

ふくし未来塾とは、社会が必要とする社会福祉実践を展開する社会福祉法人の経営人材の育成を見据えた全国社会福祉協議会が実施するプロジェクトです。

ふくし未来塾の第1期塾生から2名の代表者が、ふくし未来塾での活動を経て所属法人の課題を見つめ直し、法人内での有益な活動へとつないだ事例についての発表しました。

5日(水)
15:30～16:30

**④フレイル予防の新たな動向
～人生100年時代の社会を見据えて～**

飯島 勝矢 氏／東京大学高齢社会総合研究機構 機構長・
未来ビジョン研究センター 教授

フレイル予防には①栄養・食事、②運動習慣・身体活動、
③地域活動という3つの柱があることを指摘し、フレイル予
防の取り組みが高齢者や社会全体に浸透していくために、国
の方向性として、まずは必要な知識をわかりやすく届けてい
くことの重要性について指摘しました。

また、健康長寿から「幸福長寿」への方向性をもつことにつ
いて展望を述べました。

6日(木)
11:00～12:00



**⑤暮らしを守る高齢者権利擁護を知る
～周辺法令と判例から学ぶ～**

平田 厚 氏／明治大学専門職大学院法務研究科 教授・
日比谷南法律事務所 弁護士

認知症高齢者など判断能力が低下してきた場合に高齢者の
身を守るための権利や法令、制度などを解説しました。また、
現在の成年後見制度、高齢者虐待防止制度などの内容を取
りあげ、各制度における課題点や留意点についても説明し
ました。

6日(木)
13:30～14:30



**⑥高齢者に必要な栄養を学ぶ
～コロナ禍を超えての最新情報～**

西村 一弘 氏／駒沢女子大学人間健康学部健康栄養学科 教授

在宅高齢者の中で7割近くが食事・栄養状態が低栄養もしくは
低栄養の恐れがあるというデータをふまえ、高齢者の栄養
摂取基準の変化について指摘しました。バランスの良い食事
をとるためのポイントや、糖質の上手な摂取方法について解
説しました。

また、コロナ禍を経て、感染症予防に対する腸内フローラ
改善の有効性などについて説明しました。

6日(木)
15:30～16:30



⑦楽しみながらリハビリ・健康体操セミナー

石田 竜生 氏／(一社)介護エンターテイメント協会 代表

健康体操の実演とともに、施設や在宅で「リハビリレクリ
エーション」を実施する際のポイントについて紹介しました。

なぜこの体操をするのか、どの場面で事故の予防になるの
かといったイメージを利用者の方にビジュアル的に伝えること
で積極的に参加していただけるようになるなど、レクリエ
ーションを楽しんで取り組んでいただくためのコツについて解説
しました。

7日(金)
11:00～12:00



セミナー会場C

福祉機器 選び方・使い方セミナー

福祉機器を選び、使用する際には、機器の特徴をとらえつつ利用者に合った機器
の選定をすることが重要となります。福祉機器分野を計10テーマに分類し、3日間
にわたり福祉機器の適切な選び方・使い方のポイントを各講師陣がわかりやすく解
説しました。

また、福祉機器 選び方・使い方セミナーの20周年を記念して、行政、作業療
法士や技師などの福祉専門職、福祉機器開発者等が集い、それぞれの立場から今
後の福祉機器の未来を展望する記念セッションを開催しました。

**福祉機器選び方・使い方セミナー
20周年記念セッション
～福祉機器の変遷と未来を展望する～**

5日(水)
15:30～17:00

司会
加島 守 氏／高齢者生活福祉研究所 所長・
理学療法士

登壇者
堀家 京子 氏／公益財団法人武蔵野市福祉公社
作業療法士

田澤 英二 氏／日本義肢装具士協会 名誉会員
井上 剛伸 氏／国立障害者リハビリテーションセンター研究所 福祉機器開発部 部長
中村 美緒 氏／厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部企画課
自立支援振興室 福祉工学専門官



セミナー会場D

**身近なICT活用講座2022
～身の回りにあるテクノロジー
で創る豊かで楽しい生活～**

スマートフォンやタブレット、スマート
ウォッチといった身の回りにあるICT機器
を、障害のある人や高齢者の生活にどう
役立てていけるのか、最新のICT情報やそ
の活用方法を8講座により紹介しました。



6 H.C.R.特別企画

①福祉機器開発最前線

企業や研究機関の、開発中または開発
まもない最新機器などの展示紹介と実演
を行いました。

H.C.R. 2022においては、音声を眼前の
透明なディスプレイに字幕表示できるコ
ミュニケーション機器や、パラスポーツ
「ポッチャ」を省スペースで体験できる機器
など、8製品を展示・紹介しました。



**福祉機器開発最前線
出展企業・製品一覧**

展示製品	企業・団体
透明ディスプレイモニタ Raelclear (レルクリア)	株式会社ジャパンディスプレイ
ワードクラウド・ミーティング CYBER BOCCIA S	筑波大学 デジタルネイチャー研究室 / xDiversity 株式会社ワントゥーテン
視覚障がい者の 歩行アシスト機器「seeker」	株式会社マリスcreative design / 国立大学法人九州工業大学 / 株式会社マクニカ / NTTコミュニケーションズ株式会社
Qolo 起立リハビリモデル / モビリティモデル	Qolo株式会社
VR旅行 / VR吹き矢	一般社団法人デジタルステッキ / 東京大学先端科学技術研究センター 身体情報学分野
筋電位電動車いすコントローラ WH1	システムデザイン・ラボ / 北陸大学 服部研究室
仮称(SAT) / 聴覚視覚覚話刺激に対応 した言語機能支援アプリケーション	シスネット株式会社

②子ども広場

(協力：横浜市総合リハビリテーションセンター、東京都)

障害のある子ども向けの福祉機器の開発・
普及を目的として、様々な機器を総合展示す
るとともに、専門家による療育、リハビリ、
住まいの相談コーナーや、保育士が常駐する
ひとやすみコーナーを設置しました。

また、今年はICT機器や学習支援用品など
に特化した展示と、デジタル機器の活用に関
する活動事例紹介や、便利なICT機器の使用
方法についてのセミナーを実施しました。



福祉機器展示

子ども向けに開発された製品や日常生活に
役立つ多様な福祉機器製品を分野ご
とに約70点展示紹介を行いました。

特集～コミュニケーション機器や学習支援機器の展示&紹介～

- A. 「伝える・伝わる」コーナー 各種意思伝達装置・ツールのご紹介
- B. 「学ぶ、育む」コーナー 学習支援にかかわる機器の紹介・就学相談対応
- C. 「遊ぶ・楽しむ」コーナー e-Sports体験支援・障害児が楽しめる遊具や
楽器の紹介

相談対応

(1) 療育相談 / 福祉機器相談、(2) 子どもの住まい相談、(3) 就学相談、の
それぞれに相談員を配置し、3日間にわたり相談に応じました。

ひとやすみコーナー

(協力：東京都保育士会)

保育士が常駐し、来訪した子どもたちの見守りや、保護者のみなさんと子育て
についてお話する場としました。

③福祉用具相談 ～福祉機器・自助具のお困りごとはこちら～

(協力：(一社)日本作業療法士協会、(NPO)自助具の部屋)

作業療法士による福祉機器の相談対応を実施しました。あわせて、福祉機器の中で最も身近な道具でもある自助具を多数展示し、制作相談に応じました。また、その場で作れる自助具製作講習会を10月5日・6日の2日間実施しました。



④もっと知ってほじょ犬

(協力：(一社)日本身体障害者補助犬学会)

障害のある方のパートナー「盲導犬」「介助犬」「聴導犬」について、パネル展示や専門スタッフによる説明に加え、実際の活動の様子をデモンストレーションで紹介しました。



⑤—ご存知ですか？「新たな日常に活かすアイデア・工夫用品展」—

(協力：(公財)共用品推進機構)

コロナ禍による新しい生活様式における、障害者や高齢者にとっての各種場面やツールに対する「良さ」と「不便さ」など調査結果を掲示するとともに、アルコール消毒液や検温機器など、日常場面において使いやすいアクセシブルな製品を展示しました。



⑥被災地支援／

セルフショップ&カフェ

(協力：(認定NPO)日本セルフセンター、(NPO)ヒールアップハウス)

国内で被災のあった地域の障害者就労支援施設・事業所で生産された製品の販売のほか、事業所利用者調理による軽食を販売しました。



7 出展社プレゼンテーション

計15社の出展社の企画による製品紹介等のプレゼンテーションをH.C.R.リアル展会場で実施しました。また、そのプレゼンテーションの様子を、Web展にてアーカイブ映像を公開しました。

〈出展社プレゼンテーション参加企業・団体一覧〉

日付	時間	会場	出展社名
10月5日 (水)	10:30～11:30	東3ホール 会場C	(株) シルバー産業新聞社
	12:30～13:30	東3ホール 会場C	(一社) 全国福祉用具専門相談員協会
	14:30～15:30	東1ホール 会場A	介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム事業(厚生労働省委託事業者：NTTデータ経営研究所)
		東5ホール 会場B	移乗サポートロボットHug / (株) FUJI
10月6日 (木)	10:30～11:30	東5ホール 会場B	マッスル (株)
	12:30～13:30	東1ホール 会場A	TOTO (株)
		東5ホール 会場B	(有) マングリンエレクトロン
		東3ホール 会場C	(一社) 日本福祉用具供給協会
	14:30～15:30	東1ホール 会場A	トーテックアメニティ (株)
		東5ホール 会場B	Sunrise Medical GmbH & Co. KG
東3ホール 会場C		医療・介護ベッド安全普及協議会	
10月7日 (金)	12:30～13:30	東1ホール 会場A	(有) 礪川システムデザイン事務所
	14:30～15:30	東1ホール 会場A	(一社) 日本福祉用具・生活支援用具協会 (JASPA)
		東5ホール 会場B	(株) エルエーピー
		東3ホール 会場C	大邦機電 (有)

8 Web展 約190万ビュー達成

H.C.R. 2022のWeb展では、340社超の出展社情報と、1,200点以上の製品情報を掲載しました。

各製品ページにおいては、カテゴリー検索、機能検索、キーワード検索という3つの検索項目を設け、来場者が求める製品にたどり着きやすいページとしました。

また、会場MAP検索機能を新たに付与し、リアル展との連動性を強化しました。

なお、出展社検索および製品検索機能については、3月31日(金)までH.C.R.公式サイトにて一般公開中です。



9 広報・PR活動

H.C.R. 2022の開催を広く周知するため、出展等関係者や福祉関係施設・団体、これまでに来場いただいた方などへポスター約5千枚、DMリーフレット約60万枚を作成し、事前配布、告知しました。その他、業界誌への広告掲載を行ったほか、本会Facebookを活用し、年間を通してH.C.R.関連情報も含めた配信を行いました。

さらに、マスコミ関係者等に向け、保健福祉Newsの発行やニュースリリースの配信、厚生労働省、経済産業省の記者クラブ等を通じて関連記事情報の提供や取材の案内を行ったところ、会期中にテレビ局、ラジオ局など含む90件のプレス取材がありました。

また、次表のメディアにてH.C.R. 2022の取材が行われ、開催内容を含めた情報が発信されています。

テレビ関係	
NHK「おはBiz おはよう日本経済トレンド」	10/17
テレビ愛知「クルマとミライ」	10/27
BSフジ「ビジネスボード」	10/30

※その他、NHKニュース、関西テレビ、中国放送、名古屋放送局、日本テレビの取材あり

ラジオ関係	
J-WAVE81.3FM「MORNING INSIGHT」	10/5
TBSラジオ「人権TODAY」	10/15
ニッポン放送「ひろたみゆ紀のサンデー早起き有楽町」	10/30

新聞、業界紙	
福祉新聞	3/15、3/22、9/13、9/12、10/10
シルバー新報	3/25、10/14、10/21
シルバー産業新聞	7/10、9/10
医理産業新聞	9/15、11/1
日刊自動車新聞	10/6
日刊工業新聞	10/6
日刊建設工業新聞	10/7
日本農業新聞	10/7
電波新聞	10/11
週刊高齢者住宅新聞	10/12
繊維ニュース	10/12
日本設備工業新聞	10/15
フォームタイムス	10/15
織研新聞	10/17
交通毎日新聞	10/17
日本プレハブ新聞	10/25
日本スーパー新報	10/25
東京室内装飾新聞	11/1

情報誌、機関誌、Web News 関係	
月刊福祉	7/6、8/8、9/6
全国重症心身障害児(者)を守る会「両親の集い」	8/25
View	10/20
月刊ケアマネジメント	9/30
福祉介護テクノプラス	10/1
月刊文具	10/31
月刊老施協	11/20
人権教育啓発推進センター「アイユ」	2022年11月号
インクル	11/25
パラスポーツマガジン	11/28
PR TIMES	9/7、9/29
共同通信PRWire	9/7
新潟日報デジタルプラス	9/7
毎日新聞デジタル	9/7
読売新聞オンライン	9/15、9/29、10/27
新宿経済新聞	9/28
富士山経済新聞	9/30
日本経済新聞	9/30
時事メディカル	9/30
日刊工業新聞オンライン	10/4
岐阜新聞web	10/5
秋田魁新報電子版	10/5
YAHOO!JAPANニュース	10/5～7、9、11～14、16、26、29
福祉新聞 Web	10/12
JJI COM	10/14
ニッポン放送 NEWS ONLINE	10/17
河北新報オンライン	10/28
日身連	11/15

他

10 車いす貸出、臨時バス運行

H.C.R. 2022では、会場内の移動に車いすが必要な来場者に対して車いすの貸出を行い、3日間で76件の依頼がありました。

また、車いすユーザー等障害のある方や、歩行に困難がある方などを対象とする専用駐車場を確保するとともに、りんかい線国際展示場駅と会場をつなぐシャトルバスをご用意し、送迎を行いました。